

# Think the Earth Paper

シンクザ・アース・ペーパー

Think the Earth Paper vol.10  
Spring-Summer 2012

「大友克洋GENGA展」 忘れないプログラム 特別号

EARTHLING Interview

## 大友克洋

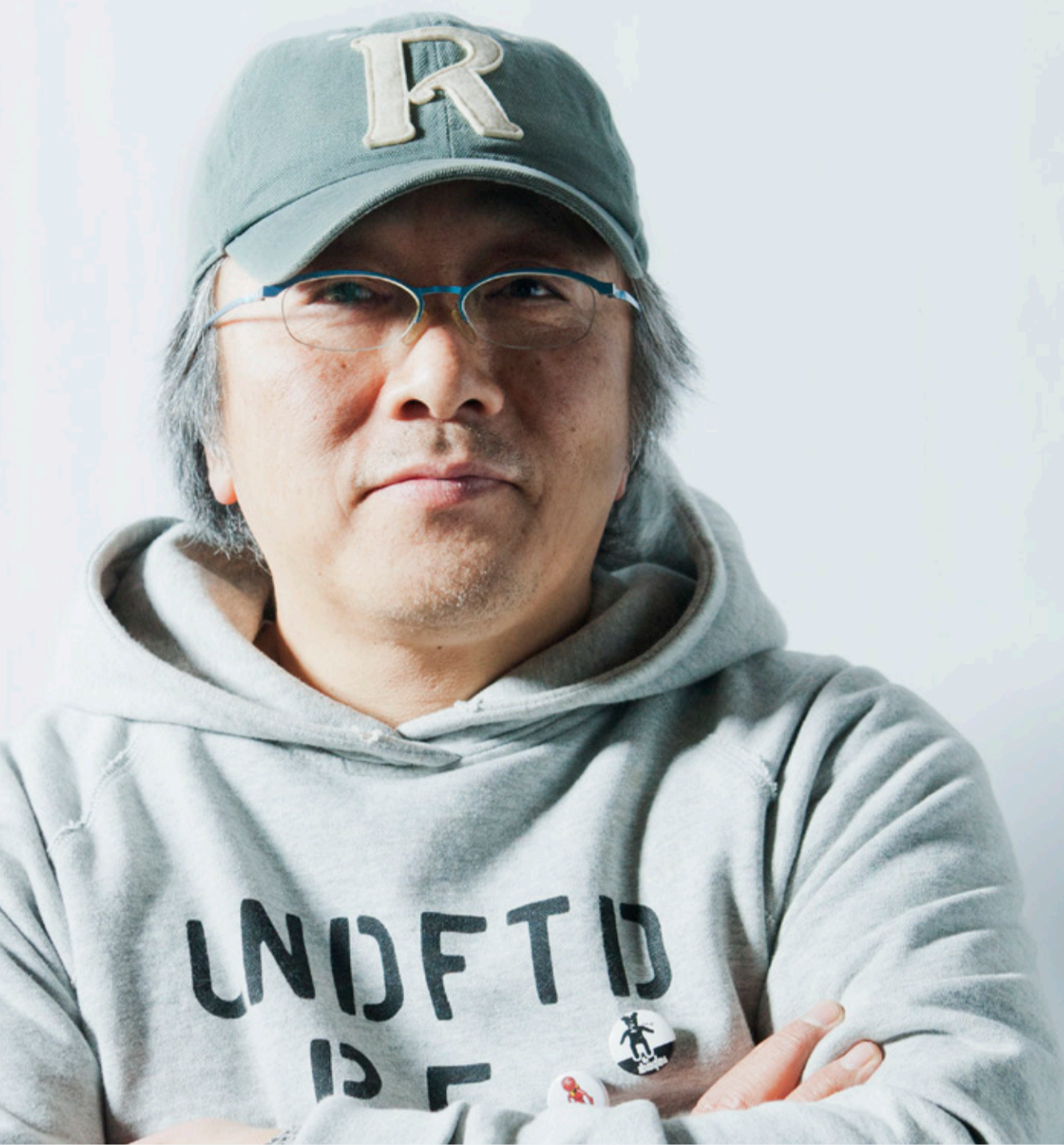
漫画家・映画監督

私は漫画家なのだから、  
自分の力でできることは原画を出すことしかない。  
現在の私自身が最高と思えるものを提示する——  
それこそが、今の私に出来る漫画家としての最大の仕事であり、  
私なりの復興支援になる。

### Support Project

北浜わかめ組合虹の会／かーちゃんのカ・プロジェクト協議会／特定非営利活動法人 田んぼ  
福島の子どもの外遊び支援ネットワーク／ゆりあげ港朝市協同組合／特定非営利活動法人 難民を助ける会

いまできることに  
力を注ぎ続けることを、  
忘れない。



# EARTHLING 大友克洋

Katsuhiro Otomo

漫画家・映画監督

2012年5月30日まで

東京・3331 Arts Chiyodaで開催されている『大友克洋GENGA展』。

その入場料の3分の1と、原画展に関連して行なわれる  
チャリティオークションの落札金額が、

Think the Earthの東日本大震災・被災地復興支援  
「忘れないプログラム」を通じて6つの団体に寄付される。

大友克洋はなぜ、原画展を開催するに至ったのか、  
被災地復興にどう向き合おうとしているのか。

日本を代表する漫画家であり、ひとりのアースリング、  
大友克洋が示し、つなげる、未来への光。

文●山下卓 写真●永禮賢



# これが、 今回の原画展開催に踏み切った 理由のすべてです。

今回の原画展の開催は、やはり3.11東日本大震災というものを抜きには語れません。私自身が被災地のひとつである宮城県の出身であるということももちろんありますが、その衝撃は、深く大きなものでした。

また、去年は震災とは無関係の場所でも少なくともは知らない人が亡くなりました。同じ業界で活躍されていた知人もいましたし、私が一方的に見知った同世代を生きてきた著名人もいました。

そんな中で、「今自分には何ができるのか?」ということを単なる自問ではなく、実行力を伴ったものとして考えるようになりました。その問いかけはやがて「何かをしなくてはいけない」という決意に変わっていきました。

同時期、私は20年振りの画集である『KABA2』の出版を控え、その準備の最中にありました。その過程で、自分が描いてきた作品を整理していくうちに、漫画家としての私が責任をもってできることは、やはり「原画展」ではないかという自然な結論に行き着きました。私は漫画家なのだから、自分の力でできることは原画を出すことしかない。

正直に言えば、震災のチャリティとして、とにかく即席でも急いで開催すべきかと思った時期もありました。けれども、やはりそれはすべきではないと考えました。私が考えていることは私だけでなく何人もの人が考えていると思います。大切なのはそれを最初にやることではなく、そんなふうに考えることができるんだという「カタチ」をしっかりと示すべきだと思ったからです。そしてまた、「漫画」という表現は、すでにそういうことを可能にする地位にあるのだということ、ひとりの漫画家として知らしめたかったということがあります。

これは漫画という表現にそれなりの時間たずさわってきたひとりの漫画家としてのプライドであり、勝手な使命感でもあります。

漫画を描くという行為には、もちろん描き手のクリエイターとしての自己満足だったり、商業目的だったりという部分が基本としてあります。しかし、それとは別に、「漫画」という表現は日本国内ではもちろんのこと、世界においても少なからぬ影響力を持つに至りました。

私はこの部分に自覚的でありたいと思っています。漫画という表現が持つ社会的な可能性をもっと押し広げていきたい、業界内のみにとどまらない影響力があるのだということを提示したい——そう思いました。それによって、漫画家としてある種の成功を収めた人にも、漫画が持つ可能性、漫画家という職業に携わる人間が持つ可能性が、まだまだその先にもあるのだということを示したいと思いました。そうやって“漫画”をどんどん底上げをしていきたい。

そのためには、「震災チャリティをやった」という事実のみに甘んじて申し訳程度にやっても意味はないと考えました。周囲の知人たちは半ばぶざけて「『AKIRA』の全原画をすべて展示したら?」と言いましたが、事実、そのくらい大きな規模でやらないと伝えたいことも伝わらないと考えました。現在の私自身が最高と思えるものを提示する——それこそが、今の私に出来る漫画家としての最大の仕事であり、私なりの復興支援になるのだと。

これが、今回の原画展開催に踏み切った理由のすべてです。

ただひとつ、誤解がないように申し上げておきたいのは、今回『AKIRA』の原稿をすべて展示するという意味です。私にとってイラストは1枚

で完結していることに対し、漫画は全てのページがあってひとつの作品となります。だから『AKIRA』という作品を展示するのなら全てのページを展示する必要があります。そういう意味で、一枚のイラストも『AKIRA』の全原稿も私の中では同じひとつの作品です。もちろん今回は展示の都合もあり、『AKIRA』以外の漫画作品は全原稿を展示することはできませんが、漫画という作品を展示するひとつの在り方として、私の作品の中では最も原稿枚数の多い『AKIRA』という作品のすべての原稿を展示することによって、その意思を示したいと考えました。

かつて『スチームボーイ』という映画の取材でイギリスに行ったとき、100年以上に及ぶ蒸気機関に関する記録がすべて保管されていたことに驚かされた記憶があります。自分達の文化を大切にするという姿勢を学ばされた思いがしました。たとえ100年後に振り返って文化として評価されたとしても、そのとき「そのもの」がなくなっていたらその文化は受け継がれません。葛飾北斎の浮世絵が残っているように、漫画もその実体を残しておかなければならない時期に来ていると思います。そして、文化として受け継いでいくのであれば、それだけの時間の洗礼に耐えうる作品であるよう、漫画の側もレベルを上げておかなければならないと思います。それを、作り手も読み手も同じように認知し、漫画というものを後の世に継承していけるよう、私達自身が声を上げなければならないのだと思います。

震災という痛ましい体験を契機に実現される今回の原画展ですが、ここに実現される「ひとつのカタチ」がそうした未来に向けての何かの布石になればと願っています。

## 大友克洋

1954年宮城県生まれ。1973年『漫画アクション』でデビューして以来、漫画史に「大友以前・以後」という境界線を刻むまでの多大な影響を与えてきた。代表作に『童夢』『AKIRA』など。1988年自作を元に自ら制作したアニメーション映画『AKIRA』や『スチームボーイ』など監督作品も多数。

## 忘れないプログラム

復興支援活動を継続的に応援するためにThink the Earthが2012年に始めた「忘れないプロジェクト」のひとつ。被災地で活動する団体、企業やNPO、アーティストなどと共に、オリジナルの支援プログラムを作成。「大友克洋GENGA展」での取り組みは、その第1号です。

# 「大友克洋GENGA展」からつながる被災地復興

岩手県

## 養殖わかめの生産に希望を 北浜わかめ組合虹の会

答えてくれた人  
細川周一さん  
北浜わかめ組合  
虹の会代表

岩手県大船渡市末崎町上山176-8  
☎0192-29-3207  
<http://www.niji-wakame.com/>

地元の木材を使い、自然エネルギーを利用する冷蔵倉庫……未来型の復興再建！  
桃太郎みたいにキビダンゴを分け合って、みんなで力を合わせてやっていきます。

**【活動内容】**岩手県大船渡市末崎町でわかめの養殖に取り組んでいる漁業者の生産組合です。震災で生産基盤のすべてを失った栽培漁業の再生に取り組んでいます。瓦礫の撤去からはじまった再起への柱として、産直ネットワークの形成を目指す「わかめサポーター制度」を広げる活動をしています。

**【活動の始まり】**震災後、4月くらいから海に沈んだガレキの片付けなどを始めました。8月に津波を生き延びたわかめのメカブから種を採取し、生産の再開にこぎつけました。「虹の会」と名付けて活動を開始したのは12月。震災前から皆で相談をしていた生わかめのオーナー制度の形を少し変えて、サポーター制度を始めることにしました。活動としては他に、漁業作業ボランティアの受け入れや漁業体験の実施も行っています。

**【大切にしていること】**いざというときは助け合う仲間たちです。何よりも人と人のつながりが一番だと思っています。

ます。個性が強い仲間が多くて、ぶつかることも多いですが、それは、お互いに自信のあるものをつくっているからこそ。先日、サポーター制度の会員証を送った岡山の方が、キビダンゴを送ってくれました。ちょうど、組合員が集まる機会があったので、みんなで分けて食べたんです。桃太郎みたいに、キビダンゴを分け合って、みんなで力を合わせてやっていく、というのが、虹の会の大事にしていることです。

**【目指していること】**末崎わかめを日本一にする！ そのためにも地元、岩手県住田町の森林認証を受けた町産材で、倉庫を建てたい。倉庫には業務用の冷蔵庫を設置し、塩蔵わかめを年間通して出荷可能に。屋根には太陽光発電システムを設置する。地元材を使った倉庫、自然エネルギー利用の冷蔵倉庫を設置することで、環境に配慮した、未来型の復興再建を図りたい。そして、漁業に携わる若い世代を育て、末崎町を活性化させたいと思っています。



上) 2012年3月、大船渡湾、細浦漁港にて。写真左から代表の細川周一さん、妻の細川とくさん、副代表の紀室秀則さん、会計の梅澤秀也さん。組合員は17人。その家族をあわせると、生産から加工まで、関わっている人数は40人にはなるという。下) 仮設の加工施設では、収穫後、女性たちがわかめの根や茎を切り分け、選別作業を行う。震災後1年で念願の収穫にこぎつけ、復興に向けての日々が始まっている。

福島県

## かーちゃんの知恵や技術で特産品を かーちゃんのカ・プロジェクト協議会

答えてくれた人  
渡邊とみ子さん  
かーちゃんのカ・  
プロジェクト協議会代表

福島県松川町金沢字船場3-27  
コミュニティ茶ロン あぶくま茶屋  
☎024-567-7273  
<http://www.ka-tyan.com/>

物資を貰う支援ではなく、動き出すための支援が欲しい。村一番の元気者だった「かーちゃん」たちの笑顔。一人ではどうにもならないけれど、つながれば動き出せる。

**【活動内容】**福島第一原発の事故で警戒区域、計画的避難区域となった飯館村や葛尾村、浪江町など、あぶくま地域のかーちゃん(=女性農業者)たちが中心となり、ふるさとの味を守り、伝え、届ける活動をしています。現在は福島市松川町の空き飲食店だった「あぶくま茶屋」を拠点に漬物づくり、餅づくりをしています。つくった農産加工品を販売するなどして彼女たちの生きがいを取り戻し、かーちゃんを元気にする活動を続けています。

**【活動の始まり】**あぶくま地域には、かーちゃんたちが地域の特産品や加工食品をつくり、販売する場所がありました。お店や農家民泊で手料理をもてなす人もいました。そこは、中山間地という厳しい自然環境の中で生きるための「仕事の間」であり、「生きがいの場」でもありました。しかし、避難生活で仲間も散り散りになり、大切にしてきた地元の食材や、加工所はすべて使えなくなりました。元気がなく「体

が動かない」と聞く一方で、「一人ではどうにもならないけれど、つながれば動き出せる」「物資を貰う支援ではなく、動き出すための支援が欲しい」との声が集まり、活動が始まりました。

**【大切にしていること】**村一番の元気者だった「かーちゃん」たちの笑顔と地域の絆です。かーちゃん同士はもちろん、それを支える県内外の生産者・消費者のネットワークをつくり、新しいコミュニティの場を形成したい。

**【目指していること】**元気になって再び「自立」できるようになったかーちゃんが「ふるさとの味」を届けることで、地域みんなが元気になって福島復興の力になっていくことを目指しています。今後はそれぞれの避難先周辺に活動拠点を増やし、避難先の地元農家と協力して放射性物質検査体制を完備するとともに、体によいおかずをそろえた「かーちゃんのカ・プロジェクト」を仮設住宅などへ届け、避難者による避難者支援の活動を続けたいと思っています。



上) プロジェクト主催のシンポジウムに集まったかーちゃんたち。左・中) 活動拠点の「あぶくま茶屋」でこんやく作りとお弁当試作。避難生活では偏った食生活で体調を崩すことも多く、かーちゃんたちが作るお弁当やお惣菜への期待は高い。右) 福島県二本松市、安達運動場応急仮設住宅で行われたイベントでふるさとの味を販売。活動が広がればキッチンカーも活用して、同じ避難者たちに届けたいと考えている。

「忘れないプログラム」の支援対象となる6つの団体に大切にしていること、目指していることを聞きました。

宮城県

## ふゆみずたんぼ農法で水田を復元 特定非営利活動法人 田んぼ



答えてくれた人  
岩淵成紀さん  
特定非営利活動法人  
田んぼ理事長

宮城県大崎市田尻大貫  
字荒屋敷29-1  
☎0229-39-3212  
http://npotambo.com/

東北の田んぼの復興こそが、未来に希望を与えると確信しています。  
化学物質を使わずに「水と生態系の復元力」のみで田んぼを復興させたい。



上・右) 塩竈市浦戸諸島寒風沢島では市で唯一の水田が被災。市民を中心とした田んぼの復興と調査が真冬の1月でも続く。3月には、全国から集まった高校生や大学生の力で復興作業が続けられた。田んぼに水を張ることで、塩分が抑えられ生きものも戻ってくる。左) 気仙沼市大谷の田んぼの復元作業。小石やガラスの欠片を分別するなど遺跡発掘のように慎重に作業を行う。中) 被災直後の南三陸町入谷の田んぼ。



**【活動内容】**津波で被災した田んぼの瓦礫を撤去し、「ふゆみずたんぼ」方式による農地の復元に取り組んでいます。「ふゆみずたんぼ」方式とは、生態系と水の力だけで農地の脱塩を図るもの。水質、土質、生物多様性のモニタリングを今後10年間行い、生態系の復元力をデータによって裏付けることも活動のひとつです。被災水田の復興過程を丁寧にモニタリングした例は歴史的に存在せず、この重要な記録を後世に残したい。収穫した無施肥・無農薬の「福幸米」を販売し、地域の経済システムを支える仕組みも作りました。

**【活動の始まり】**「ふゆみずたんぼ」の技術は古くから伝わる農法で、江戸時代の「会津農書」にも「田冬水」として記載されています。その「ふゆみずたんぼ」を広げる活動は震災前から行っていました。被災地の水田復興は2011年4月、気仙沼市本吉町大谷の一枚の田んぼから始まりました。現在は、宮城県内の4カ所（気仙沼市、南

三陸町、塩竈市、石巻市）に広がっています。この方式は既に成功の兆しが見えてきています。

**【大切にしていること】**人とのつながり、そして田んぼを復興しようとする集落の方々の想いです。どんなに正当な理由があっても押しつけない。被災地域の人々の想いを優先し、ひとりひとりと寄り添う姿勢を大切にしています。そして、生態系の復元力と弾性力の無限性を信じぬくこと。7世代後の子どもたちに何を残せるかを考えて活動することを大切にしています。

**【目指していること】**小さな田んぼの復元をひとつひとつ、着実に進めていきたい。多くの若い学生や企業ボランティアなど、支援する人々の環も着実に広がりつつあります。その環は農地の復元だけでなく、農家の自立・再建、持続可能な経済システムの確立という「地域の営み」に繋がります。東北の田んぼの復興こそが、未来に希望を与えると確信しています。

福島県

## 子どもたちの大切な時間と未来を奪わない 福島の子どもの外遊び支援ネットワーク



答えてくれた人  
橋口直幸さん  
福島の子どもの外遊び  
支援ネットワーク代表

福島県耶麻郡猪苗代町大字長田  
字東中丸3449番地31  
☎0242-72-1181  
http://www.sotoasobi.info

『今日はお外で遊ばせてくれてどうもありがとう！』スキー場での雪遊びのあとで、子どもがくれた言葉。外遊びの制限は、これからまだ長期にわたり続きます。



上) 福島第1原子力発電所事故の影響で、普段は外遊びが制限されている子どもたち。冬に行われた雪遊びの様子。左) 2011年11月、猪苗代町「昭和の森」にて。拾ったどんぐりや松ぼっくりで工作も行われた。中・右) 猪苗代リゾートスキー場にて。ソリ遊びをしたり、雪だるまをつくったり。「子どもたちの笑顔が答え。最低でも季節毎に1回以上、外遊びのための移動保育の支援がしたい」と橋口さん。



**【活動内容】**福島市や郡山市など放射線量が高く子どもが多い地域で、外遊びを必要としている保育園や幼稚園の子どもたち、および保護者を借り上げバスで送迎し、放射線量の低い地域(主会場は猪苗代町)で1日思いっきり外遊びを楽しんでもらっています。

**【活動の始まり】**震災直後の3月いっぱい1次避難所となった猪苗代町総合体育館で「子どもの遊び場」運営をし、これから長期にわたり外遊びを制限されるであろう子どもたちと直接関わったことです。感受性の強い幼児期の自然体験は大切です。除染がなかなか進まない中でなができるのか。せめて週末だけでも外で遊ばせてやりたい…そこで当ネットワークを7月に設立しました。2011年の活動回数は34回。愛称「お外で遊び隊」として、猪苗代町「昭和の森」と須賀川市「ムシテックワールド」で森遊びや木の実ひろい、工作などを行いました。冬にはスキー場での雪遊びも。これまでの活

動で約1100人の子どもが本来の「お外で思いっきり遊ぶ姿」を、たった1日とはいえ取り戻せていて、子どもらしいはじける笑顔と躍動的な動きを見せてくれました。「ハッピー、今日はお外で遊ばせてくれてどうもありがとう！」。子どものひとりがくれた言葉です。資金があれば回数が増やせ、より多くの子どもたちに外遊びの機会を提供できます。また、1週間以上の保養キャンプなど、支援のバリエーションを充実させることもできます。

**【大切にしていること】**子どもの外遊びを支援することで、本来保証されるべき外遊びを通じた健全な育ちの場になればと願って活動しています。

**【目指していること】**福島の将来への希望が弱まっている子どもたちに目の前の楽しみを用意し続けることで、「希望のある未来へ向かって生きる力」を与える一助になりたい。外遊びを制限される状態は続くと思われ、長期的に取り組んでいく必要を痛感しています。

宮城県

## 宮城の名物朝市の再開で港に活気を ゆりあげ港朝市協同組合



答えてくれた人  
櫻井広行さん  
ゆりあげ港朝市協同組合  
代表理事

宮城県名取市大手町1-1-22  
(NET プラス内)  
☎022-738-7311

「俺は生きてるぞ！朝市やめないでくれ！」と励まされた。朝市が最初に閉上に戻る。朝市が戻れば、他の店舗や住民も閉上に戻ってくると思います。

上) 朝市ではいつも、魚をさばってお皿に並べてと大忙しの組合代表理事・櫻井さん。震災前、自転車で通っていた常連さんが気軽に来られなくなったのが残念だと語る。左) 開店前のイオンモール名取の駐車場を借りた現在の朝市会場は大にぎわい。1年前はやる気を失っていたが、最近になってお店を再開した人もいるという。中・右) 地元のお客さんを大切にしているから、店頭には安くておいしい食材が並ぶ。



【活動内容】毎週日曜日の朝6時から11時まで、名取市のイオンモール名取エアリの駐車場で「ゆりあげ港朝市」を開催しています。八百屋、魚屋、加工食品、飲食店など出店数は40店。鮮魚を扱う場合は、手洗い設備などの要件をクリアした店舗で保健所の食品営業許可を得る必要があります。震災から1年は特例でテントでの営業ができましたが、その特例も終了し鮮魚店のプレハブ店舗6棟と設備を購入。水道工事なども組合で行っていきます。

【活動の始まり】閉上地区は津波被害が大きく、建物の基礎部分のみを残して更地になってしまいました。朝市会場だった場所、鮮魚棟や倉庫も流され、周囲の民家や店舗も流されてしまいました。そんな中、震災10日後くらいに、以前朝市に店を出していた南三陸町の実業家仲買人さんの安否が分かり、やっと電話で話せたとき、「俺は生きてるぞ！朝市やめないでくれ！」と励まされたんです。そして3月27日(日)

にゆりあげ港朝市を再開。当時はガスも水道も復旧していない状況でしたが、組合員を中心に10店舗が店を出しました。

【大切にしていること】地元閉上のお客さんです。地元のお客さんは魚の味を知っています。その人たちが買ってくれる商品、納得する商品を提供すれば、自然に地元以外の人も集まります。もちろん、朝市の対象はあくまで地元閉上のお客さんなので、高い利益率を設定している他の観光朝市と違い、手取りやすい価格をつけています。

【目指していること】閉上に戻ることです。朝市が最初に閉上に戻る。朝市が戻れば他の店舗や住民も閉上に戻ってくると思います。「俺らが最初に戻るから、後についてこい」という意気込みで続けています。今後は、震災前と同様の規模では経営が難しいため、朝市の出店数を120店程度まで増やし、より多くのお客さんに来てもらうことが必要と感じています。

岩手県  
宮城県  
福島県

## 障害者の就労支援と高齢者のケア 特定非営利活動法人 難民を助ける会



答えてくれた人  
大原真一郎さん  
難民を助ける会  
仙台事務所

仙台事務所：宮城県仙台市青葉区  
本町1-14-16 家福ビル3階  
☎022-748-5782  
<http://www.aarjapan.gr.jp/>

震災前は農家だった、家庭菜園があたりまえだった、そんな高齢者たちが土に触れる機会を。行政の支援が受けられない被災した障害者たちに、社会参加できる活動の場を。



上・中) 支援先のひとつ、福島県郡山市の共働作業所「にんじん舎」の農園にて。障害者にやりがいのある仕事をするために設立された共同作業所。土の入れ替えなどの除染に取り組む、ハウス栽培へシフトし始めている。左・右) にんじん舎の養鶏場前で。食品残渣や廃棄油などを利用した循環型養鶏で知られていたが、資材の多くが汚染により使えなくなったため、震災後、新たな循環の仕組みづくりを模索している。

【活動内容】仙台事務所と盛岡事務所では震災から1年が経過し、現在は主に高齢者と障害者の仕事づくり、生きがいづくりを支援する活動を行っています。高齢者支援では、農作業をする機会を失った被災者を対象に、菜園サークルの結成を呼びかけ、参加者を募っています。ビニールハウスや農機具なども提供しています。障害者支援では行政の支援の届きにくい岩手・宮城・福島に障害者施設の設備、備品の提供、修繕などの支援を行っています。

【活動の始まり】仮設住宅における60歳以上の高齢者の割合は約40%。その多くが震災前は農家として、また家庭菜園を通じて野菜や花を育てていました。津波で農地を失い、自力で農作業を再開することは難しく、仮設住宅に避難した方の中には、引きこもりがちになり、孤立するケースも多く見られます。農作業を通して土に触れることは、鬱や生活不活発の解消や予防になり、農作業がきっかけで外出し、

新たなコミュニティに参加をすることは、孤独死を防ぐことにも繋がります。被災した障害者は、通っていた福祉施設が被災したことで活動の場を失いました。家族は十分な設備の整っていない仮設住宅での自宅介護を強いられ、福祉施設の早急な整備が求められています。当会ではこれまで約50カ所の福祉施設を整備してきました。

【大切にしていること】支援から取り残される人を作らない。要援護者の立場にたった支援を心がけています。

【目指していること】仮設住宅の菜園サークルで野菜を自給し、収穫祭などのイベントを開催することで地域参加型の復興を促進させること。障害者支援では震災前と同様に地域の一員として社会参加でき、家族や介護者が仕事や活動に戻れるようになること。今後は福島県内にも事務所を開設し、販路を断たれ、売り上げが激減している社会福祉作業所の販路開拓も行っていきたく考えています。

# Information

「Think the Earth」10周年の昨年は、東日本大震災に見舞われた、大変な一年でした。しかしそれによって、真の意味で「地球を考える＝Think the Earth」することの重要性を再認識させられた一年でもありました。その認識は、7月30日・31日に行われたトークイベント「EARTHLING 2011」のテーマに活かされ、20世紀の行きすぎた「物質文明」から、21世紀人類が謙虚な「生活文化」へ立ち戻ることの重要性が、様々な論者により、様々な内容で語られました。それはUstreamを通じて日本国内はもとより世界各地に配信されると共に、記念出版を通じて記録を残すこともできました。

さらに、市民や企業の応援を現場でがんばっているNPO・ボランティアとしっかり結びつける一助としての「東日本大震災Think the Earth基

金」では、半年の間に8300万円を超える寄付を集め、迅速にNPO/NGOへ渡すこともできました。これは今年も、「東日本大震災 忘れないプロジェクト」として、再び継続してまいります。

被災地の復興や原発事故の処理など、まだまだ残された課題も多く、一般社団法人に一步前進した私たち「Think the Earth」は、さらに大きな使命感と責任を自覚して、新エネルギー問題などにのみならず、より広義な環境問題に取り組んでいくつもりです。

なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

2012年4月

一般社団法人Think the Earth 理事長 水野誠一

01

## 「みずものがたり&いきものがたり」自主上映できるようになります。

Think the Earthがデジタルプラネタリウム映像作品をつくっているのはご存じですか？地球をめぐる水の旅をえがいた「みずものがたり」、いきものと地球の歴史をたどった「いきものがたり」の2作品は、全国各地の科学館や博物館等のデジタルプラネタリウム施設で順次上映されています。

今春からはさらに、「自分のまちで上映会をひらきたい」や「企業研修で上映したい」というリクエストにお応えし、2作品のDVDとBlu-rayを貸し出す「自主上映プログラム」をはじめました！子どもだけでなく、大人も五感を通じて学びが深まり、メッセージを伝えられる映像作品として多様な場で活用できます。特に、小中学校をはじめとする教育機関では、上映会の意図や視聴された方の感想を添えていただければ（送料のみで）無料上映ができます。

科学・天文教育だけでなく環境教育のためのコンテンツとして、学校やお近くのカフェやお勤めの会社で気軽に上映会を企画していただければ（風間美穂）

[www.thinktheearth.net/jp/planetarium/rental/](http://www.thinktheearth.net/jp/planetarium/rental/)

※学校以外の上映費用については、ウェブサイトをご覧ください。

### 自主上映の手順

ウェブサイトから申請

上映申込書に記入

映像素材をお届け・確認

上映会！

映像素材を返却  
(上映後、3日以内)

ご入金、もしくは  
報告書\*を送付  
(上映後、2週間以内)

※無料上映の場合

02

## “あしたの『いいね!』をつくるんだ。” AQUA SOCIAL FES!! 2012 始まりました！

全国47都道府県50カ所で、一般の参加者を募って「水」がテーマの環境保全活動を行う参加型アクションプログラム、「AQUA SOCIAL FES!! 2012」が始まりました！これは、トヨタが昨年12月に発表した世界最高燃費のハイブリッドカー「AQUA」のプロモーション活動の一環として始まったものです。Think the Earthは企画の立ち上げから関わり、現在は北上川流域（岩手・宮城）・鶴見川流域（東京・神奈川）で行われるオリジナルプログラムのサポートをしています。

とくまじメになってしまいう環境保全活動に「FES!!」ならではの楽しさを追求。また、一過性のイベントにならないように地元で地道に活動してきた団体といっしょになって、「成果を出す」ことにこだわっているのが特徴です。いわゆるCSR活動とはひと味違う、車のプロモーションと共存したソーシャルキャンペーンは、抜群の環境性能を持つ「AQUA」だからこそできる、「未来をつくる」試みなのです。今年は年150回開催され、約1万人の参加が見込まれています。日本全国、あなたの住む町の近く、行ってみたい場所、気になる場所などなど、アクティビティはウェブサイトをご覧ください。（原田麻里子）

<http://aquafes.jp/>



上) 初体験の“かんじき”を履いて雪深い森を歩くだけでワクワク。北上川流域にて。下) 都会の自然、東京・神奈川を流れる鶴見川の土手で、早咲きの桜に出会いました。

03

## いつからでも、どこからでも、復興を応援できます。東日本大震災「忘れないプロジェクト」始動

震災からの復興に向けて、暮らしを再建している人たちがいることを、いまも現地で活動している人がいて、離れていてもできる支援があることを、そして私たち自身が、いつでも自然災害の被災者になる可能性があることを「忘れない」ために、Think the Earthでは復興支援活動を継続的に応援するプロジェクトを始めました。

現場で長期的な支援活動を行う団体やプロジェクトを紹介し、広報支援を行います。また、企業や個人からの寄付窓口として基金を設け、支援活動を行う団体へ、資金援助を行う「忘れない基金」を設立しました。そして、被災された方々や支援団体の想いに共感する個人、企業、NPOのみならず、ともに、「忘れない」をテーマにオリジナルのプログラムを

つくっていきます。

このプロジェクトでは、被害の大きさに関わらず、被災された方々が本当の日常を取り戻すまで、細やかな支援を行っていきたく思います。

ウェブサイトの復興活動リンク集では、仮設住宅でのカーシェアリングの仕組みや仕事づくりを支える活動など、2012年4月現在で、22の団体やプロジェクトを紹介しています。まずは現地の今に目を向け、感じたことをブログやtwitter、facebookなどで発信することも、誰もが出来る活動のひとつだと思います。ぜひご参加ください。（長谷部智美）

忘れないプロジェクト ウェブサイト

<http://www.thinktheearth.net/jp/wasurenai/>



### 1 復興支援活動団体の紹介

現地で長期的な復興支援活動を行う団体を紹介し、広報の支援をします。いま、どこで、どんな団体が、どんな活動を行っているのか、独自のNPOリストをウェブサイトにて更新中です。

### 2 忘れないプログラム

被災された方々や支援団体の想いに共感する個人、企業、NPOとともに、オリジナルのプログラム作りを行います。「大友克洋GENGA展×忘れないプロジェクト」は、このプログラムの第一弾。宮城県出身の大友克洋さんの想いを受け、入場料の3分の1が本紙で紹介している6つの活動団体に寄付されます。今後も「忘れない」をテーマに第二、第三のプログラムを展開していきたいと考えています。

### 3 忘れない基金

企業や個人からの寄付窓口として基金を設け、支援活動を行う団体へ、すぐに役立ててもらえる資金を援助します。

寄付先団体（2012年4月実施）：大熊町自閉症児親の会「スマイル」／（社福）燦々会 あすなろホーム／（特非）住民互助福祉団体 ささえ愛山元／（特非）泉里会／（特非）はらまちひばり

#### お振込先

銀行口座：みずほ銀行 青山支店（普通）2085931  
口座名義：一般社団法人シンク・ジ・アース 忘れない基金  
カナ表記：シヤ シンク ジ アース ワスレナイキキ

※必ず口座名を確認の上お振込ください。※一度お振込いただいた寄付金の返金はいたしません。※当基金への募金は税控除の対象になりません。あらかじめご了承ください。※集まったご寄付より10%を上限として本基金を継続するための必要経費に充てさせていただきます。

Think the Earth  
[www.ThinktheEarth.net/jp](http://www.ThinktheEarth.net/jp)

一般社団法人Think the Earthは「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマに2001年に発足したNPO（非営利団体）です。クリエイティブやコミュニケーションの力で、日常生活のなかで地球や世界との関わりについて考え、行動する、きっかけづくりを行っています。

環境や社会問題への無関心とあきらめのことこそ最大の課題ととらえ、ウェブサイトや書籍などで情報発信を行っているほか、企業やNPO、クリエイターとともに誰もが参加できるプロジェクトを開発・提供しています。

### 2012年度パートナー企業 (2012.4.1現在 五十音順)

e-天気.net  
株式会社NTTデータ  
KDDI株式会社  
サラヤ株式会社  
ソニー株式会社  
株式会社堀場製作所  
三井不動産株式会社

NTT DATA

変える力を、ともに生み出す。

本紙、およびウェブメディア[Think Daily]は、株式会社NTTデータのご協力により制作しています。Think Dailyでは、世界各地で注目の人や活動を取材する「地球レポート」(年4回)や国内外のリポーターによる「地球ニュース」が好評掲載中です。<http://www.thinktheearth.net/jp/thinkdaily/>

発行●一般社団法人Think the Earth  
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-1 エムワイ代官山201  
TEL 03-3464-5221 FAX 03-5459-2194  
E-mail tte-office@ThinktheEarth.net  
発行日●2012年4月  
編集統括●上田壮一 編集●岡野 民 編集協力●原田麻里子  
制作●曾我直子 デザイン●武田英志 (hooop)  
協力●大友克洋GENGA展実行委員会





OTOMO KATSUHIRO

大友克洋

GENGA

展 2012.4.9 MON - 5.30 WED

夜 @ 3331 ARTS CHIYODA

EXHIBITION

未発表の初期作品から最新カラー作品、そして『AKIRA』の全原稿を一挙に展示する、初の総合原画展！

会場：3331 Arts Chiyoda(銀座線末広町4出口より徒歩1分)

チケット発売：ローソンチケット(<http://l-tike.com/>) ※完全予約制で3月3日より発売

お問合せ先：info@otomo-gengaten.jp

<http://www.otomo-gengaten.jp/>

主催：大友克洋GENGA展実行委員会

協賛：講談社 BEAMS 角川書店

特別協力：YAHOO! JAPAN

©MASHROOM 2012 ©Kosuke Kawamura 2012  
Art Direction by Naoki Sato(ASYL)